



# 飯田商工会議所100年の歴史とお練りまつり

佐々木正樹  
(高35回)



● ささき・まさき  
昭和40年2月、飯市生まれ。  
飯田商工会議所事務局長。大学  
卒業後、飯田商工会議所に入所。  
中小企業相談所指導課長・総務  
企画部長を経て、平成27年から  
現職。

飯田商工会議所は、地域の皆様方のご支援により、お陰様で今年創立100周年を迎えるました。ここでは、地区内における商工業の総合的な発展を図るため、商工業者 의견を集約して、行政などへの政策提言や中小企業の経営支援、地域の振興事業など様々な活動が行われています。例えば、このコロナ禍においては、持続化給付金や家賃給付金などの各種給付金の手続きや補助事業、支援策を飯田市など関係機関と連携を図って取り組んでおり、プレミアム付商品券の発行事業も行っています。そして、7年に一度開催されます飯田お練りまつりも飯田商工会議所が中心となつて開催しています。

## 飯田商工会議所の100年

さて、飯田商工会議所の設立はいつかというと、1920（大正9）年9月に、商工業の発展と対外的諸



た際には、商工会館で昼食をとられております。

今の商工会館は、2年4か月の工期を経て平成26年に現地改築されました。

現代社会が未だかつて経験したことのないこのコロナ禍において、飯田商工会議所は原勉会頭の下、「新たな未来へ地域とともに」を合言葉に、今こそ100年間を支えていたいた地域の皆様のために、総合経済団体として行政や市民とともに一丸となつて乗り越えてまいりますので、これからもご理解とご協力をお願い致します。

## 「知られざる」飯田お練りまつり

統いて、飯田お練りまつりについて話をさせていただきます。お練りまつりは7年に一度開催され、伊那谷最大の祭りと言われています。

市内宮の前にある大宮神社では7年に一度式年大祭が斎行され、その大祭に奉納される飯田お練りまつりも7年に一度行わっています。この7年に一度とは数え年によるものであり、実際は6年ごとにに行われており、現在



大名行列



東野大獅子

は寅年と申年に実施されています。

この式年大祭に町衆が獅子舞などの余興を奉納したのがお練りまつりの始まりで、大勢の人々が街に練り出し、練り歩くことからお練りまつりと呼ばれるようになつたと言われています。

すべては大宮神社の大祭の日程に沿つて行われ、最近では、3月の最後の週末に行われるものが慣例となっています。木曜日の古式ゆかしい行列が連なる神輿渡御の神事に始まり、翌日の金曜日、土曜日、日曜日の3日間にお練りまつりが執り行われています。前回は2016（平成28）年の3月24日に神輿渡御、25・26・27日にお練りまつりが開催されました。この慣例に沿つて行われると

事を進めるうえで法的に明確化された機関の存在が必要であるとの求めに応じて設立されたとなつています。初代の会頭には、醸造業を営んでいた野原文四郎氏が就任しています。事務所は、当時の飯田町役場、現在の中央通り2丁目に置かれました。

この100年の間には数多くの出来事がありました。47（昭和22）年4月の大火により松尾町1丁目にあつた庁舎と書類収納倉庫は全焼となつています。それから約20年後の66（昭和41）年12月、皆様の記憶にもあると思いますが、常盤町に地下1階地上6階の鉄筋コンクリート造りで、搭屋にはシンボルマークであるシチズンの大時計が設置された飯田商工会館が建設されました。1階にはバスター・ミナルが併設され、45年間の永きにわたり、多くの方々にご利用いただきました。69（昭和44）年、皇子殿下ご夫妻、現在の上皇・上皇后両陛下が来飯され

すると、次回は2022（令和4）年壬寅年の3月になります。21（令和3）年6月に飯田お練りまつり奉賛会を設立し、翌年の3月25・26・27日に決定しました。

前回のお練りまつりでは、47の団体が参加し、観客は30万人を超えていました。催し物の中には本町3丁目の大行列と東野大獅子が含まれています。この2団体はお練りまつりでは欠くことのできない催し物です。

大名列は1872（明治5）年に初めてお練りまつりに参加したとの記録が残っています。絢爛豪華を誇る道具は、小浜藩や仙台藩、姫路藩から譲り受けたもので、道中演技は飯田市無形文化財に指定されています。傘や草履の演技は大変人気があります。

もう1つの東野大獅子は、350余年前に大宮神社に武運と安泰繁栄を祈願したことに始まったとされています。宇天王の優美華麗な舞、勇壮豪快な頭、笛太鼓の妙技な調べの3つが組み合わさった演技は当代唯一と言われています。特に獅子頭の重量は30kgあり、他に比類がなく、以前、頭を新調した際に依頼を受けた業者が置物の頭と勘違いしたほどの大きさです。また、長さ25mの幌の中で演奏するスタイルは、当地域特有の屋台獅子の典型です。最終日には大獅子が7年間の深い眠りに入る「ねやまの舞」でフィナーレを迎えます。

このお練りまつりですが、私たち関わっている者からすると、決して、知られるとか隠れたとか、という認識はありません。しかしながら、7年に1度の祭りのため、高校を卒業した後、東京や他の地域へ出てそのまま飯田へ戻つてこないと、飯田には18年間しかいないことになります。では、その間にお練りまつりが何回開かれているか。実は2～3回だけです。しかも春休みに中心市街地で3日間だけ行われる伝統芸能のイベントに中学生や高校生がどれだけ関心を寄せているかを考えると、残念ながら「知られざる」のフレーズはあながち間違つていらないなど、改めて感じたところであります。

このような歴史と由緒ある大祭です。一刻も早くコロナが終息することを願い、再来年（2022年）の春には是非飯田へ来て、お練りまつりを堪能していただきたいと思います。

また、開催にあたっては大変多くの費用が掛かります。そのため、飯田市からも多額の補助金をいただいておりますが、企業をはじめ多くのご寄附もいかない実施できません。その折には皆様方のご支援とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

飯田高校が独立120周年を迎えた節目の年に、このような機会をいただき、誠にありがとうございました。